

ヒトメタニューモウイルス感染症について

RSウイルス感染と似たような症状をひきおこす乳幼児期の代表的な呼吸器感染症で3月から6月にかけて流行する傾向がありますが1年中発症が確認されています。1回の感染では免疫ができないため何度も感染を繰り返し、2歳までに50%・10歳までにほぼ100%の小児が感染します。

症状



炎症がひどくなると、細気管支炎を発症し咳が増えたり、ゼイゼイしたり呼吸困難を生じます。1歳未満、とくに生後6ヶ月以内のお子さんや、先天性の心疾患を有するお子さん・高齢者は重症化しやすいため注意が必要です。

治療

- 特効薬がないため、症状に合わせた対症療法を行います。
- 咳に対しては吸入を行い、気管支の炎症をおさえ、痰を出しやすくします。
- 鼻汁・鼻詰まりには吸引を行います。
- 症状に応じて、ステロイド剤の全身投与や入院が必要になる場合もあります。

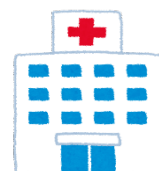
お家でできること

- 解熱剤は熱だけでなく、機嫌が悪い・つらそう・グズグズしている・・・など全身の状態にあわせて上手に使いましょう。熱が1度でも下がると体はだいぶ楽になります。そのタイミングで食事や水分を与えるのもおすすめです。
- 咳で苦しそうなときは、背中や胸を優しくトントンしたり、体を起こすように抱っこしてあげてください。
- ◆ 鼻が苦しそうなときは、鼻水を吸い取ってあげましょう。
- ◆ 可能であれば部屋の加湿器や洗濯物を部屋干しするなど・・・加湿を工夫しましょう。
- ◆ 水分補給を心がけ、少量をこまめに飲ませてあげましょう。
- ◆ 鼻水・咳・目やにで感染します。集団生活への復帰は医師に相談してください。

こんなときはもう一度診察を・・・

- 咳や鼻詰まりで眠れないとき
- ゼイゼイ・ヒューヒューと音が聞こえ苦しそうなとき
- 胸やお腹をペコペコさせ息をしているとき
- ミルクや母乳の飲みが悪い・水分もとれない・おしっこの量も少ないとき
- 顔色が良くない、元気がないとき
- いつもと何か違うとき・・・

おだいじにどうぞ



菊池医院